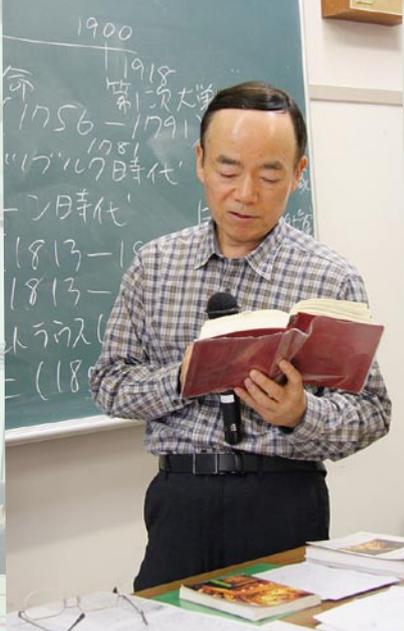


# 「オペラの中の女性像」



講義をされる三宅先生▲

担当教員：三宅新三 社会文化科学研究科 教授  
 科目区分：教養教育 主題科目（人間と社会）  
 時 限：金曜日 3限（12：40-14：10）  
 授業概要：代表的なオペラ作品における女性像を分析し、作品が作られた時代や社会とのかかわりについて考察する。毎回授業の前半は講義を行い、後半は映像を見る。

第三回目は教養教育・主題科目（人間と社会）「オペラの中の女性像」です。興味はあっても、なんとなく難しそうだから、と敬遠している人も少なくないのがオペラ。そんなオペラの見方を劇的に変えてくれる授業をご紹介します。

## ▼体験

じつは、私もオペラ初体験。わくわくしながら授業体験に臨みました。十月九日の授業のテーマは「オペラの歴史について」。前半では、オペラは、じつは十六世紀末に起源を持つ音楽劇で、その歴史は新しいこと。高尚で難解なものと思われているが、その最大の主題は「男女の愛」で、人間の愛憎劇を描いたものがほとんど。現代人にとつても理解しやすく、興味深いものであること、などが講義され、「へえ、そうだったんだ」と知的な興奮を感じました。

後半は、今日オペラハウスで上演される最古のオペラであるモンテヴェルディ『オルフェオ』を鑑賞。ギリシア神話がモチーフで、日本人には難しく感じられそうな題材でしたが、前半であらすじや見所、社会的・文化的背景などを解説していただいていたおかげで、すんなりと物語の世界に入っていけました。物語にも心打たれましたが、オーケストラによる荘厳な音楽には魂をゆさぶられるよう

でした。ライブではなおさら感動できるのではないかと、とオペラを観劇したくなりました。もちろん周囲の学生たちも、夢中になって画面に見入っていました。

この授業は、毎回前半が講義、後半がオペラ鑑賞という構成になっており、今後もモーツァルト『フィガロの結婚』など名作をテーマとするとのことでした。

## ▼ねらい

「オペラは、貴族的なものと思われるようですが、現在上演される作品の大半は、じつは十八世紀末から二十世紀初頭の近代ヨーロッパにおいて市民社会が確立された時代に作られたものです。たとえばワーグナーは、物語に仮託し、自分が生きた十九世紀の市民社会を批判しています。『オペラの中の女性像』という科目名にしたのは、このようなオペラ作品に登場する女性像の分析を通じ、当時の社会を理解することを授業の目的としているからです。そして、現

代社会の基本的枠組みは近代ヨーロッパの市民社会で作られたので、オペラ作者たちの批判は現在にも通じるものがあります。オペラを見、その社会的・文化的背景を知ること、現代社会や自分の生き方についても考えて欲しいと思います」と、三宅先生はこの授業のねらいを語られます。

「とはいえ、学生時代にオペラを見る機会はありません。しょうから、まずは、この授業でオペラを見る楽しみを知って欲しいというのがいけばんのねらいですね。」

## ▼反響

この授業は、学生に人気で、例年一〇〇人を超える受講者が集まります。ふだんあまり見る機会のないオペラを見ることができ、さらにこの授業で身につけた知識を役立てることで、今後の生活においてもオペラを楽しむことができます。とても有意義で、「お得」な授業であるといえるでしょう。